■鹿島テクニカルセンター合同研修会アンケート　　2026 年 9 月 18 日

社名	株式会社西建設計	氏名	齋藤広大	経験年数	7 年
			水野京香		5 年
			井上翔理		4 年

□S 造・階段エリア

デッキ製作図を見る機会が少なく、躯体図情報からではデッキ形状の把握ができていなかった。実際のデッキも山なりになっているデッキがあったり、鉄筋と一体になっているデッキがあったりと製作図や実物を見なければ分からなかった情報が知れて良かった。

柱を施工する際に使用するコラム足場や、エレクションピース等の仮設関係、免震装置という用語は知ってはいたものの実物を見る機会がなく、今回見られたことは良い経験になった。仮設図などの免震関係の図面にかかわる際は今回の経験を役立てたいと思う。

鉄骨階段を設ける際、仕上工事の前に設置することを知った。ササラ・壁仕上などの厚み・取合いを間違えるとやり直しになってしまうので、より責任を持って作業に努めたい。

□RC 造・EV エリア

・人通口の補強要領・バルコニーの配筋など色々な箇所の配筋説明を受け、また写真を撮らせて頂いたので、今後自分で躯体形状など検討する際の参考にさせて頂こうと思う。

・RC については大学の実習で学び、製図やコンクリート打設などを経験したが、パラペットや杭/基礎定着の仕方などは知らないことがありいい学びになった。

・一番びっくりしたことは関西圏と関東圏で型枠を止めるパイプの形が違うことだ。出身が関西圏だったこともあり、実習の際確かに角パイプだったことを思い出した。地元の友人にも話せる内容も増えた。

・現場見学は竣工前に行うことが殆どの為、EV の内部を見る機会は中々なく貴重な経験だった。
EV ピット内にどのような機材・下地があるのか図面と照らし合わせての確認ができ理解が深まった。

□外装・屋上エリア

・今の現場では、ALC・ECP が外装として使われている。躯体図を作図・修正する際、どのような金物を使用して納めるかは図面でしか分からなかったものが、モックアップにて実際の納まりを見ることでイメージが今まで以上に具体的に想像できるようになった。

・外部で防水の保護板としてラムダ板というものがあり、見たことも聞いたこともなかったためあまりイメージがつかめなかった。しかし、今回の講習会で実際に見て講師の方から話を聞き理解できた。今の現場ではベテランの方が調整してくださったため、今後の現場で同じような防水取合があれば私自身で調整してみたい。

・仕上の目地はどこで入れ、定着はどこからしなければいけないのかを学習できた。以前ほかの現場見学時に、窓枠の腰壁に配管が通っており、目地が多少ずれていてここはやり直しますとおしゃっていた現場監督さんがいた。見た目の問題だけと思ってはいたが、この勉強会を通して見た目以外に安全面にも考慮していたのかなと今になって思う。細部までこだわれるよう精進していきたい。

□内装エリア

・内装関係の下地はどちらかというと現場で考える為、施工図を書いているだけでは中々イメージがつかず見学でき良かった(間仕切り壁であればどのように LGS を組んで内部に設備器具を取り付けるか等)。以前の現場で施工した納まり（機械室の GW 板や天井関係等）を見ることで再確認することができた。

・断熱材吹付けとグラスウール貼り付けを名称でしか理解しておらず、中身もほぼ同じと考えていた。今回の講習を経て、貼り付けは水分を吸いやすいため施工する際は、床から数センチあげて且つ見切りをつけることや、コストによってグラスウール貼り付けに変更するなどの細部まで知れた。図面をなんとなく書いているだけだったので、細かな原理まで知ることができると建築の面白さを知るいい機会となった。

□全体

参加者の図面経験がまちまちなので、各項目について感想を箇条書きで記入する。

同業他社の同年代の方々と一緒に、色々なモックアップ現場を見るというのはなかなか無いため貴重な経験になった。ほかの企業でも同じような勉強会は開催されていたが、当時、新卒年だった私の周りには経験が豊富な方々しかおらず、説明もその方々向けで理解が難しく十分に学ぶことができなかった。図面経験 4.5 年経ち且つ今回の勉強会は私たちに合わせたレベルでご指導していただいたので、図面が一人で書けるかどうかはまだ難しいところだが、注意点や考え方を学ぶことができいい学びになった。

図面だけで見るよりも、実際に施工中のものを見て説明していただいたほうが記憶に残りやすくとても良い時間を過ごせた。講師の方々からは基本知識だけでなく、作図する上での注意ポイントなどを聞くことができ勉強になった。今やっている現場で参考になるモックアップがあったり、前の現場で施工したものが実際現場ではどのような納まりになっているのかが見ることができたりと参考だけでなく、思い出し再確認することもできた。

今の私の業務内容は仮設計画図を描いている。施工図に関してはほとんど経験がなく、実物も間近で見る機会もなかった。正直なところ自分が無知すぎて教えられたことは理解できても、施工図の詳しい内容まで理解ができず、今後施工図に生かせる自信がない。だが、仮設計画業務にいかせるポイントもいくつか見つけられた。PC 梁と足場の関係性であったり、免震構造でのクリアランス部分・内部の構造だったり、普段みないような点まで見ることができよかった。また、仮設計画図は 10～100ｍｍ単位で作業しているが、1mm 単位で作られた床・外壁の割り付けをみると、施工図ができるか不安になる一日でもあった。

□その他感想や要望等自由記入

・施工図を描いた経験がほとんどないため、納まりなどの細かな図面が欲しかった
・杭頭と基礎梁の鉄筋の組み方で、実物を見ることができたのはよかったが、どこまでが杭の鉄筋でどのように納まっているのかが分からない。そのためすべて同じように組んでいるように見えてしまった。
色を塗るなどの工夫をお願いしたい。
・今回の勉強会では学べることが多かったと感じた。後輩たちにも同じ経験のできる機会をお願いしたい。

■写真（コメント等自由記載）

1.目地の通し方

窓や樋などがある場合の目地の割り付け方の説明

外壁にひび割れが生じないように窓まわりの目地は外枠にあわせて割り付ける、樋なら仕上につけるのではなく躯体からつける。

また、外壁の種類が変更になる場合、下地の取り付け方が変わるため気を付ける。





2.外部(屋上設備置場)

外から中の設備が見えないよう、目隠しとして設置。

人目につく場所なので均等に割り振る。ずれが起こらないよう下地を止める位置などに気を付けなければならない。

3.S 造におけるデッキと梁の関係

鉄骨やデッキプレートなどは早めに発注しないといけないため、施工図は早めの作成し、デッキの端部は丸める。

L 字型の鉄筋は水平ネットをかぶせるためのもの。仕上高さはボルトがあるところが一番低くなる。ここから耐火被覆をし、下地、仕上が入るため、高さ関係には気を付ける







4.グラスウール貼り付けと吹付け

上がグラスウール貼り付け、下が吹付け

施工の仕方…貼り付けの場合、壁にピンを取り付けて断熱材をはめ込む。

先端はキャップで塞ぐ

吹付けの場合、掃除機の逆バージョンでふかす。厚さの確認は押しピンみたいなもので数カ所確認する。色によってピンの長さが異なる。

貼り付けは下から数センチ床から上げて、水が入らないように見切りをつける。管は躯体から取り付ける

5.天井インサート

左はシステム天井と右は在来天井

システム天井は比較的に自由に作成可能、在来天井は２グリッドごとにインサートがあるため決められた配置になる。インサートの吊り具はコンクリートに打込みになるため施工図での検討が必要



